

コプロダクション型のケアプランを作ってみよう ～精神科訪問看護の質向上にむけて～

○瀬戸屋 希¹⁾、木戸 芳史²⁾、青木 裕見¹⁾、矢内 里英³⁾、小泉 快^{1,4)}、福島 鏡¹⁾

- 1) 聖路加国際大学、2) 浜松医科大学、3) 訪問看護ステーションほしぶる、
- 4) 訪問看護ステーション ソレイユハートケア

支援サービスの利用者や市民と専門家が協働し、共に支援を考え取り組むことを「コプロダクション」と呼びます。イギリスなどでは、政策立案から個別支援、研究活動、教育活動においてコプロダクションの考え方が広まっており、精神保健サービスの基本理念にも挙げられています。サービス利用者が、自身の支援計画や支援体制の検討に参加することは、その人の権利を守ると同時に、人生への主体的な参加とリカバリーにも繋がります。また、関係者が互いの専門性を共有することにより、サービスの透明性と質が高まることが期待されます。

企画者らはこれまで、精神科訪問看護の「よい実践とはなにか?」「よい実践を行うために何が必要か?」という問いを、実践や研究活動を通じて考えてきました。精神科訪問看護に対するニーズが拡大・多様化する中で、質の評価と質向上の取り組みはますます重要になっています。よい実践を探求する中で見えてきたことは、支援理念に基づくこと、エビデンスや理論に基づくケアを行うこと、そして支援の目的・内容・効果を利用者と支援関係者が共有し、協働する仕組みがあること、でした。

本ワークショップでは、この協働の基盤となるコプロダクションの考え方について紹介し、利用者と訪問看護スタッフが一緒に取り組む「コプロダクション型ケアプランの作成」について、皆さまとワークを通じて考えたいと思います。コプロダクションの鍵となるのは、協働関係と対話です。これらは日々の訪問看護実践で、すでに取り組まれていることでもあります。当日は、模擬事例をもとにケアプランを「共に」つくるワークを通じて、参加者の工夫や技を共有し、日頃の実践知をコプロダクションという視点で再整理したいと思います。実践の中から、理論に基づくよい支援を創りだしていく過程を、一緒に体験頂けたら幸いです。

コプロダクションについて学びたい方、精神科訪問看護に関わる仲間と出会いたい方など、広く皆さまのご参加をお待ちしています。

倫理的配慮：本ワークショップは、ペアワーク、グループワークを中心に行います。事例は模擬事例を用います。参加者の皆さまには、お互いの発言や経験を尊重し合い、個人情報保護と安心して話せる場づくりにご協力をお願いいたします。また、本ワークショップに際し、開示すべきCOIはありません。